

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	知的生産性と対人関係		
英文授業科目名	Interpersonal Relation in Creative Activity		
開講年度	2005年度	開講年次	3、4年次
開講学期	6、8学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	田中 健滋		
居室	保セ202		

公開E-Mail	授業関連Webページ
kjtanaka@office.uec.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
代表的な日本人論の検討を通じ、現在と過去の日常生活の対人関係を考える。 さらに、これらと知的生産性の関係を検討する。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
なし

<b>【教科書等】</b>
(教科書) 土居健郎：続「甘え」の構造（弘文堂） (参考書) 土居健郎：「甘え」の構造（弘文堂） ルース・ベネディクト：菊と刀（社会思想社） 中根千枝：タテ社会の人間関係（講談社新書）

## 電気通信大学 平成17年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

各回の発表者が、資料とするテキストの担当部分の内容をまとめたプリントを配り、それを説明し、皆からの質問を受ける。他の人はその部分をあらかじめ読んでおき、討論に参加する。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a)評価方法：出席が2 / 3 以上ない場合は評価対象とならない。

$$\text{成績評価} = (\text{出席および討論参加度評価} \times 30\%) + (\text{担当部分発表評価} \times 30\%) \\ + (\text{最終レポート評価} \times 40\%)$$

(b)評価基準：

以下をもって合格最低基準とする。

- (1)資料としたテキストの内容を理解し、評価すべき点および問題点を指摘できる。
- (2)この理解をもとに、過去と比較した現代の学生の対人関係を論ずることができる。さらに、対人関係と知的生産性について論ずることができる。

### 【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、メールなどで事前にアポイントを取ること。

### 【学生へのメッセージ】

各概念の定義をとらえること。セミナーでは遠慮無く自分の思ったことを発言すること。

### 【その他】